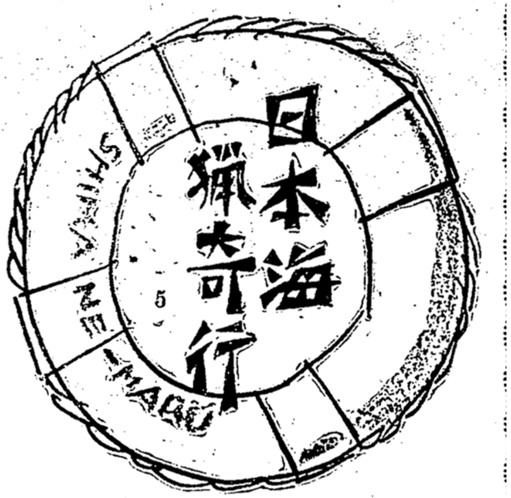


幾万數しれぬ
亂れ飛ぶ海ねこ
奇怪なリヤンコ・コーラス團
冷汗三斗の大洞窟

竹島の猟奇探険は忿ち吾も吾もと大入満員、一間餘りのテンマ一艘に無慮十人から詰めかけるもうテンマは一ぱいで木戸止だみんな坐つとれ、立つとテンマがひつくりかへるぞッ！いや、はや大騒ぎの始末

「なんと、見んされ、あの鳥を……あれは海猫だ、凄いもんじやのう」

東島の突端、削り落したかと思はれる文字通りの断崖絶壁數百尺、天を仰ぐやうな巓か峰のあたりを、これはなんと何千、何万凡そ數知れぬ海猫（かもめの一種）が

湧き上るように入り亂れ飛ぶ様は壮観と云ふよりも寧ろ物凄いほどの奇觀だ、その中には馬鹿どりのカモメ先生も加はつてゐるらしい白いのがカモメ、灰色なのが海猫――と船長が敎へて呉れる、海猫は一見カモメと似てゐるが恰度猫の夜泣きと同じ泣き聲をするので此の稱がある、今や竹島音樂學校では唱歌のお稽古、そこで

ニヤオ、ニヤオ、ニヤオ、ニヤオ

と云ふ海猫女史のソプラノに入りまじつて

ガオ、ガオ、ガオ、ガオ

とカモメ氏のバスといふワケだが、その喧噪々騒々世にも奇怪極まるリヤンコル島のコーラスバンドである。然しようも、こんなに鳥が集まつたものだ、若しアノ鳥の群れてゐる中へドカンと一發散彈をこめてぶつ放したら、どんな素人のハンターだらうが目をつぶつてゐても十や廿の鳥が一遍に降つて來るだらう。リヤンコ風景はまだ此處にもある、海面僅か一米位、兎もすれば岩に砕ける浪しぶきを頭から冠つてしまひそうに見える一連の岩礁の上に、これは又眞白なリヤンコ百合が一面に咲き亂れてゐる――と思つたのはとんでもない見當違ひで、點々と散在する幾つかの岩礁に奇しくも咲いたリヤンコウ花かと見たは大失敗、實は白服姿のカモメ氏が一寸岩の上にとまつて休んでゐる風景だつた、リヤンコウ花はよう出來た！と船長以下手を叩いて拍手喝采、ところが此のリヤンコウ花の正體カモメ先生は滅多に人を見ぬせいかテンマが近づいても一向平然たるもの、此の前は釣つたが、今度は一つ手捕にしようものと、舳の一人はいきなり兩手を差延べて

躍りかかつたが今度はカモメの方が賢かつた。手の先僅か一尺餘り、ガオガオと二聲ばかり「俺には猾がある」といふ顔つきで空中へおさらば……勢ひ餘つてよろよろすればテンマは十人も乘せてゐるんだから大揺れに揺れて、亂暴するなッ！と怒聲も起る、全くカモメになぶられて今度こそはとんだ馬鹿を見ましたね

…………

現在、我邦における海猫の繁殖地は經ケ島（簸川郡日御碕）と蕪島（青森縣）の二つが二大繁殖地として天然記念物にまでも指定されてゐるが、リヤンコウの海猫は經ケ島どころの話ではない、經ケ島並に裏日本沿岸一帯で見かける海猫も殆どリヤンコウの海猫が出稼ぎしたものだといはれる。リヤンコウでもカモメや海猫の繁殖地は東島北側の絶壁と西島南側の岩角だが、春は三月の繁殖期、暖かい風が海を渡つて吹きはじめると何處から集まつて來るのかその數は廿万を超え、リヤンコウ全島を埋めて彼方の岩かげ、此方絶壁の突角で夢もとろけるやうな甘いランデヴーの大絵巻が繰ひろげられる。勿論、そこには戀の葛藤もあらうし又悽い戀のエレヂーも奏でられる。戀するものは人も鳥も同じだ、バサリ！突然目の前を何か黒い影が顔と遮つて空から落ちて來たものがある素破！怪物とばかり

度膽を冷すと、何でもないそれは冷たくなつた海猫の死骸だつた、何と妙な天氣だなア、今日は海猫が降るんか――と空を仰げば天日も蔽はんばかり悠々と海猫の大群が頭の上を舞つてゐる、こうして戀の葛藤に疲れ、又飲まず食はず、生活に敗れた哀れ敗殘のかもめ鳥は、空を飛びかふのである、おいあそこに妙な鳥が居るぞ！成程、カモメとも海猫ともつかぬちつぽけな鳥が四、五羽ほどつい舳先の岩にぼんやり海をみつめてゐる、これは海雀だ

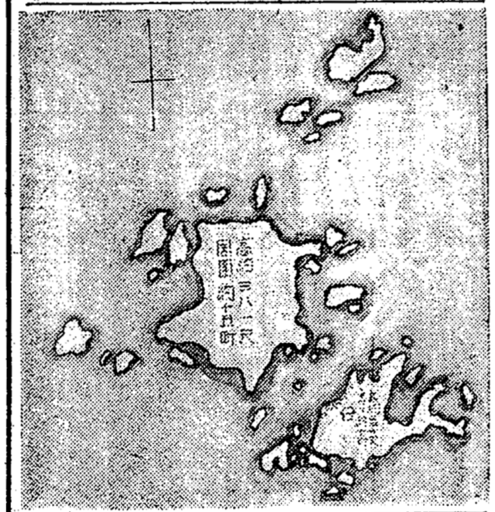
…………

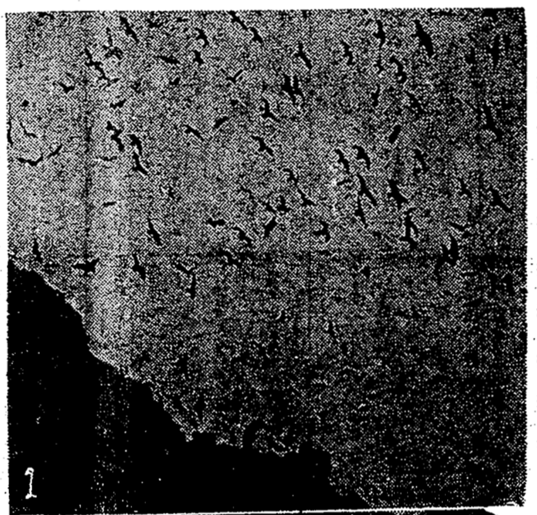
東島は周圍約十町、高さ約二百二十六尺（地圖右方）これに比して西島は稍大きくて周圍約十五町、高さ約三百八十一尺（地圖左方）東西二つの大きな島を取巻いて大小數十の岩礁が點々と散在してゐる、テンマはとある大洞窟の入口に出た

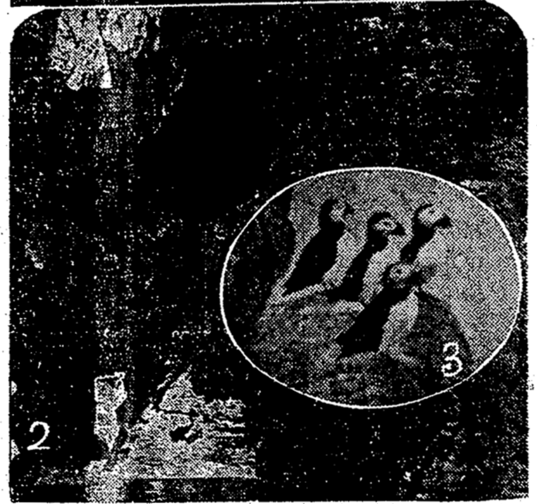
「おいなんと恐ろしい洞穴だなア、頭の上から岩が落つこちそうだぜ」

みんなは洞窟の入口を見上げてヒヤリと膽つ玉をちぢめる、正に冷汗三斗、それもそのはず側立つた絶壁は足もとから背のびをして斜めに突出、頭の上に蔽ひかぶさつてゐるのだ、誰でもはじめは、あの大岩石が突然崩壊したら……と考へると冷汗三斗は少くとも請合だ、洞窟の入口は高さ百尺に餘り

寒潮がどぶり、どぶりと洗つてゐる、中は眞暗だが時々穴の奥から冷たい地獄風が颯々と湧き出て來る、は入つて見ようか、どうしようか……どんな化物が飛出して來るかも知れない穴の奥をおそる〳〵覗き乍らテンマの上でリヤンコウ未曾有の大評定、どうせリヤンコウは化物のふところだ化物見參、見參！と穴の入口から怒鳴つて見たところで、穴はびくともせず鼠一匹出て參らぬでは一つ穴の中にすゝむとしようか……







寫眞は❶海猫の大群❷數千疊敷もある大洞窟❸珍鳥うみすゞめ

松陽新報（1935年8月3日）
島根県立図書館所蔵